



学生の主体的な学びを支援するための の学生情報の活用

大学職員情報化研究講習会

～応用コース～

第1分科会(第3グループ)



学生カルテ導入の目的・目標

教職共同による学生支援

[Drop Out(脱落者)の防止及び抑制]

IR(Institutional Research)との連携

e-ポートフォリオとの連携

学生情報の共有化によるワンストップの展開

学生カルテの課題



- 各部署と教職員(メンター)の権限設定
- 各部署の持つ情報が分散されている
- 利用者側の負担増(業務増)
- 優良学生などの情報が欠落している
- 管理する情報のレベル分け
- 利用度数が低下している
- (学外・学内)セキュリティレベルの設定
- 管理部署の設置(各部署横断型の委員会を設置)
- 利用実績など評価するチェック機能の必要性
- システム導入後の形骸化

学生カルテ課題に対する

学生チューターなどの導入



- 利用目的の説明(情報履歴の重要性)
- ガイドラインの作成(個人情報保護とのバランスを図ることも必要となる)
- 利用部署と利用項目による権限設定(利用目的に合致したもの)
- 学生と面談をはかり、支援するレベルを確認する
- 各部署の持つ情報の共有化(データベースの統合)
- 利用環境は学内に限定をする(仮に学外からアクセスする場合には、認証の強化が必須となる)
- 適切な学生指導のツールとして利用する
- 導入済みの学部・学科の利用実績を拡大させる



ポートフォリオ導入の必要性

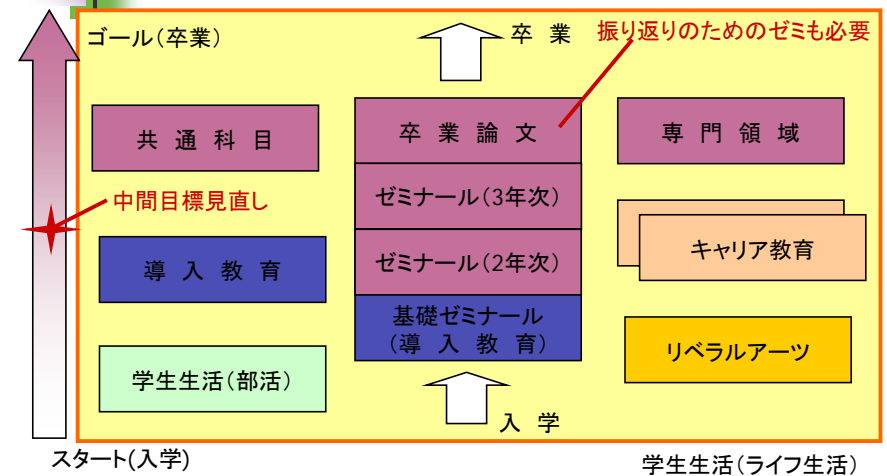
教育目標を達成するための振り返り

情報の蓄積による
IR(Institutional Research)への活用



ポートフォリオの導入に向けて

中間目標・未達成の場合の補完教育



ポートフォリオの課題

- 学生の情報を見れる権限付与
- 教員・学生に情報の入力を促す手段
- 振り返るための手段の必要性
- 管理部門の問題
- 各部署の枠を越えた運用が必要



ポートフォリオ課題に対する解決策

- ゼミナール教育などとリンクする
- FD教育とリンクする
- SNS(ソーシャルネットワーク)の利用
コミュニケーション
- 入力の強制と評価を得ることまでの見直し
→成績不良やメンタル部分の問題を未然に防止
- TA及びSAの協力が不可欠(相談・体験談)
- SAは、ゼミナールの上級生に依頼する
- 学生カルテの活用(課題のある学生を抽出)
- CPIによるカリキュラムの見直し
→中間目標・見直しする機会
- 教育支援(学修支援)センターの充実
- 資格取得や就職など、明確な目標のある分野から導入することで、教育分野へ展開する



まとめ

- 学生の自発的な行動のためのツールである
- 情報共有のためのICTの導入が不可欠
- 情報をデータベース化し、共有化(SNS)の利用 (ICTの利用目的)でポートフォリオを活用していく
- 学生カルテとポートフォリオを連携する (相関図参照)



学生カルテ/ポートフォリオと建学の精神との相関図

